

平成 30 年度 中学生 市長と語る会

- 【目 的】 ・勝山市内の中学生と市長とが、世代や立場を越えて語り合う場を設ける。
・次代を担う中学生と市長とが語り合うことを通して、ふるさとに誇りを持ち、
未来に目を向けて学び続ける人材の育成を図る。
- 【日 時】平成30年11月21日（水）15：40～17：30
- 【場 所】 教育会館 第2研修室
- 【参加者】 勝山市内三中学校 生徒会執行部役員 9名(各校3名ずつ)、引率教諭
- 【テーマ】 「わたしたちの思い～学校・ふるさと勝山・将来～」

<市長>

生徒の代表として、生徒会の会長と副会長に来ていただいた。今勝山市はわたしが市長になっていろんな事業をしている。みなさんになかなかわかりにくい話もあるが、わかりにくいことをそのままにしておく、みなさんの生活が市とどのようにかかわりがあるか何もわからないままだから、身近な話題について、みなさんから質問を聞かせてもらって、それを一つのきっかけとして、いろんな話をしてみたいと思っている。

こういった場を設けた理由は、10年、15年もたてば、みなさんが次に次代を担って活躍していく時代になるからである。10年、15年はあっという間にくる。わたしが市長に就任したのが18年前で、みなさんが生まれる前だけど、その18年を振り返るとほんとにあっという間だった。過去を振り返れば非常に短い時間で、それと同じスピードで、君たちにとってはこれからの未来も非常に速いスピードでその時代を迎えることになる。青年期から大人になるそういう時代に備えて、いろんな考え方を持っていていただく、そのためには、市の情報もちゃんとキャッチをして考えることができる、そういう立場にあるというのはとても大事なことだと思っている。みなさんの疑問や要望があれば聞いて、市長としての考え方を述べたいと思っている。

<司会>

中学生のみなさんから自己紹介をお願いしたい。(三中学校関係者が自己紹介)

本日のテーマは「わたしたちの思い～学校・ふるさと勝山・将来～」。各校ごとの提案のうち、市長より、ご高評、ご助言などをたくさんいただきたい。

勝山南部中学校

<南部中 A さん>

わたしたちは豊かな自然と伝統のあるふるさと勝山が大好きである。しかし、ほかの県の人から見たら、勝山には恐竜しかないように見えている。この勝山をもっと盛り上げるため

に4つの案を考えた。

1つ目は、勝山市民に特別無料パスを作るということ。勝山に素晴らしい観光地や伝統があっても住民のわたしたちがそれらを知らないことには何も発信できない。だから、ひとり1回ずつ勝山の観光地に無料で入れる無料パスを作るとよいと思う。同じように、ほかの県の人をよんできたなら割引されるなどの制度をつくれば、勝山の発信につながる。

2つ目は、企業との協力。グリコと協力し、恐竜の形の pino を作るとよいと思う。全国の人が pino を知っている。勝山オリジナルのご当地 pino を作ると勝山の知名度アップにもつながる。

3つ目は、「勝山の日」を作ること。例えば勝山にちなんで毎月28日を「勝山の日」とし病院と消防署以外のすべての会社と学校を休みにするというものである。もちろん宿題もなし。家族でゆっくり団欒したり勝山の自然と触れ合ったりする日にすると、市民のやる気と手ごたえも強まるのではないだろうか。

4つ目は奥越での協力。勝山と同じように大野にも素晴らしいものがたくさんある。奥越で一つになってPRすれば、奥越全体が活気あふれる場所になる。

修学旅行で勝山に来てもらい、勝山の中学生が市内を案内して、都会では体験できないことを体験してもらうのもよい。左義長のように伝統ある祭りや豊かな自然、恐竜博物館以外にもたくさんの観光名所をより多くの人に知ってもらう活動をし、わたしたちの大好きなふるさと勝山を活気あふれる町にしていきたい。

<南部中Bさん>

将来勝山の交通の便をよくしたい。勝山はよく田舎だといわれるが、その田舎を生かして活性化したい。もし勝山で大きなイベントがあるのなら、子どもから大人までが企画から参加できるイベントにするといいと思う。勝山の人をよくボランティアなどに参加していて優しいと思うし、全体的に見て、子どもも大人も仲がいい。そのようなイベント開いてもらえたら、中学校全体で手伝いたいと思う。

交通の便について。勝山にたくさんの観光客に来てもらうためにPRするが、来てもらってから交通の便がよくないとたいへんである。だから、電車やバスの本数を増やしてほしい。勝山から福井に行く人も良くいるし、福井までではなくても、勝山駅までバスを利用したいという人もいる。その人たちのためにも増やしてほしい。

僕の周りには、将来薬剤師や教師になりたいなどの夢を持った人がいる。ほかにも陸上競技場を立ててほしいという声もあった。これはあくまでも例であるが、こういう夢や望みを実現するためにも勝山市の都市化は不可欠である。

<南部中Cさん>

わたしたちは普段学校で様々なことを学んでいる。例えば社会の授業では歴史のときに由利公正や橋本左内などの福井県に関わりのある人物などである。公民では、福井県や勝山

市のニュースを交えて、また、英語の授業では、英語で勝山市を簡単に紹介したり道案内をしたりして、地元愛を深めながら楽しく学んできた。14歳の挑戦では、普段の学校生活では学べない勝山市のことや社会的常識のことを学ぶことができた。この14歳の挑戦のような活動をもっと増やしてほしい。勝山全体が一つになってふれあい学べる機会をもっと増えたら、勝山市がもっと活性化するだろう。ふるさと勝山の未来を支える学校ができると思う。総合的な学習の時間には、遠足や14歳の挑戦、修学旅行で学んだことを考えまとめる活動もしてきた。その経験を生かして、学校全体で地域のことを考える活動、勝山全体でつながる活動をもっとしていきたい。例えば、この市長と語る会のように、三中の生徒会と勝山市の企業も交えて、みんなで意見を交換したり交流したりする機会を作るのはどうだろうか。互いの学校や企業の工夫や良いところを取り入れることで、勝山市の活性化にもつながっていく。

わたしたちの学んだことをもっと発信していきたい。勝山市のHPの観光情報のコーナーにわたしたちのまとめた学校新聞やレポートなどを掲載してほしい。市民の人たちにはわたしたちの学んだことを紹介することができる。ほかの県の人たちが見れば勝山市のいいところを知ってもらうきっかけになる。

勝山南部中学校では、毎週金曜日にあいさつ隊を行っている。先日行った超スーパーあいさつ隊では、約60人の生徒があいさつ隊員となって朝の玄関を盛り上げた。このような取り組みを勝山市全体で取り入れてほしい。勝山市の雰囲気がとてもよくなる。勝山の良いところは笑顔で挨拶をすればそれが返ってくる場所である。この良いところをもっと生かしていきたい。

今回の市長と語る会に向けて、学校でアンケートを行い、全校生徒の意見を集めてきた。そこで多く出た意見を二つ紹介する。

少子化対策について。勝山市は何か取り組んでいるのかという質問があった。わたしたちなりに対策を考えてみた。例えば街中に描いてある恐竜の足跡をもっと増やして色分けをし道案内のパネルの代わりにするという案が出た。

第2恐竜博物館について。メリットとデメリットを考えた。メリットは、「一度来た人もまた来てくれる」「さらに観光客が増える」「片方が混んでいてももう片方で楽しむことができる」などが出てきた。デメリットは、「たくさん費用がかかる」「今ある一つの恐竜博物館の“ひとつだけ”という特別感がなくなる」「道がさらに混む」などが出てきた。

この2つについて、市長の考えをうかがいたい。

<市長>

すごいねえ。みなさんの疑問に答えるとかコメントしないといけないことを丹念にしていたらそれだけで時間が終わってしまう。しかし、よく考えている。ほんとにすごい。

一度にたくさん聞いたから、頭の中をなかなか整理しきれないけれど、まず、Aさん。確かに勝山市の自然は素晴らしいし、恐竜だけではない魅力がいろいろある。ほかから来た人

にも市内の市民の人たちにもちゃんとわかってもらって、それぞれの人が勝山を自信をもって話ができるような町の在り方、町の人たちの在り方を望みたい。3人の人たちは、今発表してくれたような気持ちを常に持ちながら、成長して行ってほしい。大人になるといろいろなことを見聞きして、勝山のいいところよりもほかのいいところのほうを見て、それらを比較して勝山はよくないという大人もいる。そういう大人にならず、かといって勝山をえこひいきするのではなくて、客観的に勝山を見て、さらによくするにはどうしたらよいかを考えて行動してほしい。

グリコの pino を作るとか、無料パスの話があった。グリコの pino はどんなもの？（Aさん：小さくて、丸くて、箱に入っている。チョコレートに包まれている丸い食べ物である。）グリコに頼めば、やってくれそうなの？一つの課題にしよう。

勝山の日 28 日、すべて休みというのはおもしろいアイデアだけれど、28 日に特別な意味はあるの？（Aさん：かつやまの「か」が「加える」という意味で「+」、「つ」が英語の two で「2」、「や」が漢字の八で「8」、「ま」が○で、+28○）それ考えたの？（Aさん：執行部で考えた。）メモしておいて、わからなくなるから。それはおもしろい発想だけど、企業のみなさんが一斉にやってくれないといけないから課題としては残るけれども、発想としては何かに生かしたい。毎月じゃなくて、1年に1回ぐらいはやってみたいね。

交通の便をよくすることについて。現在のえち鉄とかバスではまだ便は多くない？まだ少ない？（Bさん：そうですね。）みんなが学校に行っている間にもバスは巡回している。なかなかいっぱいにならない。市の周辺部を回ってくるバスは、利用したい人がいるものの、利用したい人たちが利用したい時間を共有できていないということもあって、ひとりかふたりを乗せてバスが回っているということも多い。いかに利用してもらえるかということを考えて、停留所、時間帯、回るコースを毎年毎年考えている。だけど、やはり今のような状況である。これでいいというわけではない。自動車を運転していた人の高齢化が進むと、運転ができない年になったときに、移動する手段がないと困る。だから、バスは非常に重要な交通機関だと思っている。さらに研究を重ねて、高齢者の人も乗りやすい、そして、みんなも乗りやすいようなバス体系を考えていく。えち鉄は、勝山の場合はほかの自治体と違って、恐竜博物館や平泉寺に来てらっしゃる方の利用率がだんだん高まってきている。その需要と、通勤や通学のために使っている方々の利便性を高めるために、さらに今の時間帯でいいのかどうかということは検討していく。恐竜博物館はシーズン制があるから、シーズンには増便するなど対応できないかと思っている。

大人も子どもも一緒に楽しめるイベントという話があった。勝山市は夏祭りをやっている。はっきり言って盛り上がりがない。みなさんに聞いてみたいこともある。君たちがもっと小さいときによさこいをやっていた。覚えてるか？特に鹿谷小学校は「鹿谷童子」として、君たちもやったかな？（Gさん：はい。）楽しかった？（Gさん：はい、楽しかったです。）今いろいろ盛り上げを考えている。いいことをもう一回再チャレンジしてもいいかなという気持ちもあるので、またみなさんの気持ちを聞く。

これも鹿谷の話だが、冬のイベントで、鹿谷町雪まつりというのがある。これもいつもたくさんの方が来ている。勝山市内でも、例えばジオアリーナの駐車場を使って、雪の造形とか雪まつり的なことができないかという、わたしの心の中だけの思案を持っていて、実現したいと思っている。雪がたくさん降った時に、あの駐車場を融雪するのではなくて、除雪車で雪を積み上げるから、すごい雪の山ができる。僕は雪の遊びが好きだから、高い雪の山にスロープを作ってそりをやったり子どもたちが遊んだり造形したりすると、勝山市の雪まつりができるんじゃないかなと思っている。これも考えることにする。

陸上競技場は本当に欲しい。陸上で頑張っている君たちの友達もいる。陸上競技場という専用の施設がない中で非常に頑張っているので心強い。そういう人たちに対して、活動するフィールドを与えたい。しかし、とにかくお金がかかる。ジオアリーナ、素晴らしいでしょ？今素晴らしいと言って絶賛されているけれど、作るまでに発想から30年以上かかっている。わたしがもっと若いときに、そのとき市長だった今井市長に、体育協会の会長として「勝山市の体育館を作ってほしい」と伝えたのが、30年か35年前。作るにはそれぐらい時間がかかる。お金がかかるからすぐにはできない。しかし、夢は必ず実現するという希望をもって、やっていこう。そうすれば、君たちが大人になるころにはできているかもしれない。自分自身が走ることができなくても、君たちの子どもは走ることができるかもしれない。わたしもがんばる。

14歳の挑戦という素晴らしい取り組みをやっている。いつかは社会に出ていくという中で体験をする、さらには企業の人たちの考えを聞く、たいへんいい取り組みだと評価している。今日の提案はさらにもっと突っ込んで、勝山市の企業人の人たちとも話をしたいという提案で、びっくりした。それだけの意識を持っているということは、商工会議所を通じて、しっかり伝えて、今日のような形でみなさんと企業の人たちが話し合える機会を作ってほしい。なぜ大切かというと、勝山の企業はわかっているけれど、その企業が何をしているかということがよくわからない人が多いからである。それをもっと広く知ってもらうための方策を勝山市も今考えている。勝山市まちづくり会社という会社があった。この会社が市の考え方と一緒に冊子を作った。今日持ってきた？（米村課長：持ってきます。）実は勝山の高校生を対象に作ったのだけれど、まさか、君たちがそこまで意識が高いとは思わなかったから、用意しておかなかった。たいへんいい意見と考え方を持っていると思う。中学校の頃からの興味や取り組みは、将来絶対生きてくるし、高校生だけじゃないんだなあとということを痛感している。その冊子を見ると、勝山にはこんな企業があつてこんなものを作っているのかということがわかる。ひとつの例を挙げると、桐生選手が福井の陸上競技場で10秒の壁を破った。その時にはいていたシューズの布の部分は松文産業が開発して作った。それだけの技術力を持っている。それと同じように、織物は衣服のものだけだったが、今は工用資材や産業資材、メディカルの分野とか、いろいろなものに使われていて、トヨタの「ミライ」という水素で走る車の重要な部分も作っていた。企業秘密があるから「これだ」とメーカー側もはっきり言ってくれないが、最先端の技術と研究を含んだチャレンジを勝山市の

企業はしているということを知っていてほしい。

HP で発信することについて。学校全体で、君たちが何を学んで何をしているかということ発信したいんだっただけかな？（Cさん：わたしたちの遠足とか14歳の挑戦とか修学旅行で学んできたことをまとめたものです。）まとめたことを発信したいということだね。これもやりましょう。

それから、あいさつ。大事なことだ。知らない人にでも、にこっとすればそれがあいさつになって返ってくる。大切なことだと思うけれど、知らない人に向かってはなかなかにこっとすることもできないし、にこっとするのも難しい。まず、コミュニケーションはそこから始まる。外国に行くと、知らない人でもエレベーターの中で一緒になると必ずにこっとしてくれて、「どうぞ」とか「お先に」とか非常に心が通じ合うことがある。そういうことも心がけたいし、みなさんの提案で勝山市がそうなるように何か考えなければならない。それには、まず、みなさんが今やっているように、笑顔で友達同士あいさつするとか先生にあいさつするとか地域の大人にあいさつするとか、絶対続けてほしい。それが大きくなっても続いていけば、勝山市全体がそういう町になっていくプロセスとしてたどり着く。今の気持ちを大事に実行してほしい。

少子化対策について。街中に恐竜の足跡とか第2恐竜博物館とかいう話があったが、少子化とはあまり関連しないように思うが、子どもたちにも楽しまれるような町を作って子どもを産みましようということか？（Cさん：はい）少子化対策のためには、いろいろ考え方があろうけれども結婚してもらおうということ。あまり言いすぎるとよくないことなんだろうけれど、健康なお子さんがたくさんできることを祈っている。みなさんにもそういうような時期があつという間に来る。

聞き足りないこともあつたかもしれないが、ほかの質問もあるので、それが終わってからまた更に聞きたいことがあれば質問してほしい。

勝山中部中学校

<中部中 D さん>

ふるさと勝山について思うことは、勝山には勝山ならではの施設がたくさんある。勝山市の人以外に、外国の方や県外の方に勝山市に来てもらうために、中学生で作ったパンフレットを公共の施設においてもらって見てもらうことをしたい。（市長：外国人の人に？）外国人の人とか県外の人にです。

<中部中 E さん>

ふるさと勝山について思うことは、今の恐竜博物館の周りの施設を充実させるとよいということである。第2恐竜博物館を福井県に作るという計画があることを聞いた。勝山にできてほしい。その施設がUSJのジュラシックパークのようなアトラクションも含まれる

と楽しめる人が増えると思う。そのような楽しく学べる施設があれば、ぼくたち中学生もうれしい。

僕は野向の竜谷に住んでいる。中学校から遠いので普段は自転車で通学している。雨や雪の時はバスで通学している。バスで通学したときは帰りのバスは6:01。部活動は6:00に終わるので、最後まで活動することができない。だから、部活動を早めに切り上げて帰っている。僕はバレー部に所属をし、県ベスト4を目標に練習に取り組んでいる。部活動は最後までみんなと頑張りたい。だから、バスの時間がもう少し遅くなるとうれしい。

<中部中 F さん>

わたしは学校で未知の知識を得ることの楽しさや仲間との和を学んでいる。勝山中部中学校のいいところは、笑顔が多く、先生方との信頼関係がとても強いところだと思う。

しかしその一方で、生徒全体の意識として、学習や部活動への意欲や向上心が足りないと思っている。このことを改善していくために放課後毎日「部活動対抗ランニング」を行っている。内容は、部活動の前に外周のタイムや内周の周数を競い合う。(市長：トラックを走るのが?) 学校の周りを走る。晴れの日には学校の周りを走る。(市長：タイムを計るの?) 外周の時はタイムを計って、雨や雪の日には校舎の中を走って、周数を部活動ごとに競い合う。

また、執行部で「志チェック」を実施しようと企画している。志チェックとは自分の立てた目標を日々意識し生活してもらおうという企画である。ほかには、学年を越えて仲を深めてもらおうイベントも企画している。

ふるさと勝山について思うことは、伝統の祭りや勝山ならではの特産品をもっとアピールしていただきたい。わたしは勝山左義長保存会にも所属していて、県内はもちろん県外のイベントに出演し、精いっぱい練習を重ねている。左義長祭り当日の2日間はたくさんの人であふれている。県外のイベントに参加したときに、「去年も行ったよ」とか「また今年も見に行くね」と言ってくださる方もとても多く、それがうれしい。勝山で伝統の祭りをもっとアピールしていただけるといいなと思う。

<市長>

Dさんが外国人や国内から来られるお客さんに中学生が作ったパンフレットを渡したいという提案だが、すごくよいことだと思う。ぜひやってほしい。観光振興課を通じて実現したい。荒土の西ヶ原のニンニクを地元の人がものすごく一生懸命作っていて、そのバリエーションで、ニンニクみそなど、二次製品、三次製品を作っている。それを子どもたちがアピールしている。読んだことはある? アピール度がすごく、実際食べたくなるような書き方をしてあるから、子どもたちの考え方とか視点の持ち方とかアピール力が大きいことにびっくりしたことがある。だから、今の提案で、みなさんの見え方、考え方でパンフレットを作ってほしい。ぜひ採用したい。

バスが6時に来てしまうと、帰れなくなるということだね。これは何とか考える。どれく

らい伸ばしたいの？（Eさん：10分ぐらい。）10分でいいの？（山口校長：せめて20分ぐらいで。）実情も調査をして、取り組めるかどうか考える。

学習の意欲と部活動の意欲を高めるために走っているのか？本当に毎日？（Fさん：毎日です。）運動能力も向上して走るのも早くなったり持久力がついたりもするの？（Fさん：します。）すごいね。誰が言い出したの？先生？それとも生徒たちから？（Fさん：前の代の生徒会です。）いやだいやだという人はいないの？（Fさん：います）それでも引っ張って走るわけだね。頑張ってるね。志のチェックってなんだっけ？（Fさん：1週間に1回、自分でたてた目標を見えるところに掲示して、毎日帰りの会でそれができたかどうかチェックをすること。）すごいね。感心する。こういうことをずっとやっていけば、立派な大人になれる。すごい。感心した

伝統のお祭りとか行事とかをもっともっと発信したいということについて。今、勝山市のいろんなセクションが取り組んでいる。さらに、恐竜博物館に来られたお客さんにアピールするためにジオターミナルというのができて、どちらかという、恐竜関連のものばかりが売られている。松ヶ崎の恐竜橋の九頭竜川のところを整地し始めて、道の駅を作っている。そこでは、勝山の名物をどんどん作って売っていきたい。だから先ほど言った西ヶ原のニンニクもそういうところで売れるし、野向のえごまとか、シーズンになればサバのなれずしとか、これからいろんなことにチャレンジする人が出てくるから、そういう人たちの製品も出てくると思う。みなさんも中学生の立場で、こんなものを作ったらどうかなというアイデアと、実際に作ってみて出してみるという機会は十分にある。今までは、考えはあって商品を作っても売れ出す場所がなかった。勝山の商品として、かろうじてゆめおーれの中のショップでオリジナルなものとか勝山の名物を売っている。それなりにお客さんに来ていただいているけれど、さらに道の駅であれば、恐竜博物館やスキージャンプ勝山に来るお客さんが立ち寄ることになるから、そこで商品に触れて買っていただけるような場面ができる。何年後かになると君たちも十分そういうことに関われるチャンスが今以上にあるから、是非とも期待をもってがんばってほしい。

左義長はおかげさまで有名になった。これからも左義長保存会の人を中心にまだまだ盛んになるように市も支援していきたいと考えている。えち鉄物語という映画ができて、その中で左義長がストーリーの中で重要な部分を占めている。23日から全国公開されるので、評判を呼ぶと思っている。だから、えち鉄に乗ってみようとか、あのストーリーの中で一番重要なシーンになっている左義長ばやしを見に行こうというような全国からのお客さんが来てくれるのではないかと期待している。だから、今提案のあった名物を発信するとか伝統の祭りのアピールをするとかいうことに取り組んでいきたい。

えち鉄物語、見た人？（中学生：いない。）まだ見てない？福井のテアトルでやっていると思うから、お父さんお母さんにせがんで、連れてってもらってね。

<北部中 G さん>

これは、勝山を有名にするために北部中学校が販売している PR グッズです。どうぞ使ってください。(市長：毎年何か作っているね。すばらしいね。このタオルはデザインもしたの?) はい。(市長：じょうずだね。わたしはこのタオルの生地が好きでよく使っている。これと同じものを何かの時にももらったな。) 去年です。(市長：去年か。ブルーだったね。いろいろの色があるの?) 毎年色を変える。(市長：クリアファイルね。これはどういうところにあげているの?) 各地区の文化祭とか左義長祭りとかで、販売している。

わたしたち勝山北部中学校では、7年前から「北中まちプロジェクト」という活動を行っている。「勝山を、美しく、元気に、有名に!」をコンセプトにして、主に九頭竜川清掃や温川の外来駆除活動などの環境保全活動と各地区の文化祭や年の市、勝山左義長祭りでの勝山 PR グッズの販売を行っている。特にわたしたち後期の生徒会では、PR グッズの販売を通して、勝山を有名にすること、合わせて、環境保全活動の啓蒙活動を通じて、勝山を今より美しく元気にしていこうというわたしたちの活動を知ってもらうことに力を入れている。先日行われた北郷町民文化祭と荒土町民文化祭では、生徒会執行部のメンバーとボランティアとして協力してくれた数名とで PR グッズの販売を行った。たくさんの生徒がボランティアとして参加し、ステージ発表の司会や模擬店の手伝いなどを行う中、わたしたちは PR グッズの販売をしながら、環境保全活動への協力をお願いした。この勝山 PR グッズの販売活動をさらに広げたいと考えている。勝山を有名にするため、可能ならば、勝山市外での活動もするとよいのではないかと考えている。勝山を知らない方に勝山を知っていただくために、例えば福井駅や東尋坊などの観光客が多く集まる場所で、この活動を行いたい。また、スキージャンプ勝山やわれらが恐竜博物館、平泉寺などの勝山にある観光地で、観光資源を生かしながら、勝山を有名にしたいと考えている。わたしたち中学生にできることは限られているかもしれないが、新たにできることを増やしていきたい。

<北部中 H さん>

ぼくは勝山を有名にするために新たに施設を作るのではなく、今ある資源をもっと観光に生かしていくとよいのではないかと考えている。例えば、勝山の九頭竜川にはアユがいる。アユ釣りの時期になると、釣り人が市外や県外からも訪れているのをよく目にする。だが、ぼくたちはアユ釣りをしたことがない。というのも、アユを釣るためにはアユ釣り券を購入しなければならず、それは、1日券だと3000円、年間の券になると12000円もする高額なものだからである。釣りの愛好家なら来るかもしれないが、釣りの経験が浅い人や初心者の方は少し来づらいように思う。僕は、幅広い人たちに勝山に来てもらって、勝山のアユや自然を気に入ってもらえたらいいなと思っている。

そこで、九頭竜川の一部をアユ釣りができるように開放するというのはどうか。券を購入

するよりも安く体験できるスポットを作れば、若い人たちや親子連れなども訪れてくれる。アユを守るために時間を制限したり、安全に釣りをしてもらうために定期的に講習会をするのもいいと思う。2020年には勝山に道の駅ができるという話を聞いたし、先日の福井新聞にもその記事が載っていた。道の駅の近くに体験スポットを作り、中でアユのことをPRしたらいいと思う。(市長：そうだね。いい発想だ。)

<北部中Iさん>

わたしはこの道の駅で勝山の名産品や新しく開発したグッズを販売し、より多くの人に勝山のことを知ってもらうためにはどうすればいいのか考えてみた。わたしたちは家族で旅行に行くとキーホルダーなどを買うことが多い。そこで、勝山の名所や恐竜にちなんだキーホルダーを作り販売してみてはどうか。そうすれば、若い世代の方々にも勝山を知ってもらうことができ、SNSなどでのPR効果も期待できる。また、はびりゅうやチャマゴンとのコラボ商品を作り、わたしたち中学生や高校生のアイデアを取り入れ販売してみるのもよいと思う。勝山の特産品の販売方法としては、朝市を行うとよいのではないだろうか。これからの時期ではサトイモ、春には勝山水菜、夏には妙金ナスや若猪野メロンなどを販売する。ほかにもその季節に取れる新鮮な野菜を提供できるはずである。また、勝山で採れた野菜を使い、料理を提供するのもよいと思う。

わたしたちはこの道の駅の一画で、勝山PRグッズを売ることができればいいなと思う。わたしたちが先輩から受け継いできた北中まちづくりプロジェクトを通して勝山がより美しく、さらに元気に、もっと有名になっていくように、これからいろいろなことに挑戦していきたい。

<市長>

北中の生徒さんたちは勝山を有名にしたいという意欲がいろんな活動に表れている。ずいぶん前、東京でアピールしたこともあると聞いている。今日いただいたようなグッズを作ったの積極的な活動が素晴らしい。考えているだけではなくて実践しているということに対して本当に素晴らしいと思う。

ほかの中学校でもやっているけれど、河川の環境整備で北中の場合は温川での活動があり、初めてのときに感想を聞いたことがある。ごみを拾ってみると、拾ったごみはみんな大人が捨てたものだから、子どもに「きれいにしなさい」と言うのではなくて、大人が意識をして、「川に物を投げない」「川に物を捨てない」ということを大人に対して啓蒙したということを知った。そのような心掛けの大人になれば、町を起点に勝山全体もきれいになるし、川もきれいになると思う。それぞれの学校のそばに、浄土寺川もあるし淀川もある。是非ともこれからも続けてほしい。

道の駅に対する提案も、ひとつひとつ「なるほどな」と思う提案ばかりで、アユ釣りについては確かに提案された通りだと思う。アユ釣りをやってみようと思うけれど、なかなかで

きない。無断でやっていると監察を持っているか尋ねられて、持ってないとなると怒られるだろうし、違反していることになる。そうかといって、監察を手に入れようと思うとすごく高い。だから、アユ釣りをすることは、中学生にとってはなかなか難しいことであるということから提案が出てきたのだと思う。今、勝山の漁業組合では、九頭竜川勝山鮎という商標登録をして認められたので、勝山のアユ釣りスポットとしての宣伝と勝山のアユはおいしいというアピールをもっともっとしていきたいという強い意識を持っているから、その中で今日の提案も伝える。例えば、道の駅の近くの九頭竜川を誰でも入れるような形にして、アユ釣り体験をしてもらうという提案は、非常にいいことだと思う。アユ釣りはやってみようと思ってもなかなかできない釣り方だから、必ず教えてもらわなければならない。そういう意味でも、体験をするのはいいことだと思う。ただ、漁業組合が子どもたちを対象にアユ釣り体験をしてもらうような企画を年に一度ぐらいやっているように聞いている。その取り組みを拡大しながら、一大イベント、大きな行事として取り組んでもらうように提案してみる。

道の駅の話がたくさん出た。運営の方法とか、中に入ってもらえる業者さんとか、勝山の人が道の駅で物を売るときにはどうしたらいいのかなど、その仕組みをこれから作ろうとしているところである。だから、先ほど提案のあったことができないか、今からわたしのほうから話をしておく。例えば、朝市をやること、中学校のみなさんがイベントで自分たちでも売ってみたいと思えばやってみるとおもしろいし、オリジナルグッズなどがあるとかかなり名物になるかもしれない。キーホルダーというのはいいいアイデアだ。目をつけている業者さんもいるかもしれない。みなさんのアイデアを盛り込んでその業者に提案してもいいと思う。道の駅は日本中に1000か所以上あるらしい。どこも運営には苦労しているというのが実情らしい。しかし、わたしが自信を持っているのは、恐竜博物館に年間100万人近いお客さんが来るし、冬はスキージャンプに20万人以上のお客さんが来る。オールシーズン、お客さんさまを期待できる道の駅だから、みなさんの提案が十分に生かせると思っている。そして、勝山をさらに有名にしていきたい。みなさんの力やアイデアで、それらを具体的な形にしたいから、いろんな取り組みへのアイデアがあったら言ってほしい。

一度にたくさん聞いたので、すべてにこたえられたのか不安なのだけれど、わたしの話の中で「もっと聞いてみたい」とか、「わたしに対する答えがない」とかいうことがあったら、手を挙げて言ってほしい。

<南部中 C さん>

勝山南部中学校では生徒会を通して学校全体で意見箱というのを設置して生徒全員からアンケートを集めた。その中で気になる質問や意見があったので紹介したい。

「勝山を活性化させるために自分たちにできることは何かないか」という質問があった。

わたしたちは遠足や修学旅行などでPR活動を行ってきた。しかし、活動の成果があるようにいまいち感じられない。ほかにもわたしたちにできそうなことはないか。助言をお願いしたい。

<市長>

PR活動でどんなことをどういうところでしてきたのか。(Cさん：自分たちでポスターやパンフレットを作って配った。遠足では、東尋坊や福井の駅前で、2年生の時には金沢駅の構内で行った。)そのパンフレットというのは、自分たちで作ったパンフレット？それとも既存のパンフレット？(Cさん：作ったものと本物のちゃんとしたパンフレットを配った。)配っているときに手に取ってくれる人と「いいわ」という人と、いろいろたんじやない？みんなが手に取ってくれた？(Cさん：話しかけたときに、忙しい人は話を聞いてくれなかった。話を聞いてくれた人はだいたい受け取ってくれた。わたしたちのPRのおかげで観光客が増えたとか人口が増えたという感じがあまりしないので、さらにわたしたちに何かできることがあれば助言していただきたい。)みなさんの活動を見ている人の立場に立つと、中学生がそのようなことをしているということに対して、「何をしているんだろうな？」という思いがまずあると思う。その思いがきっかけになるし、意外性もある。それをいい方向に持っていくことはできないかなと思う。だから、ありきたりなパンフレットを渡すだけでは効果は弱いと思う。興味を持ちそうなものとか、お金はかかっていると思うけれども、実用品でこれ使ったらいいなと思われるような魅力的なもので興味を引くとか。パフォーマンスをして人の目を引き付けるとかあったらいいんじゃないかな。そういう提案があるということを受け止めて、何か考えるが、みなさんも考えてほしい。相手の立場を考えて行動を起こすと、案外いいアイデアが出てくるかもしれない。相手の立場というのは、忙しい人たちが駅には行きかいているわけだから、その人たちが「お！」と足を止めるような仕掛けというのを何か考えるとおもしろいと思う。(Cさん：市長がおっしゃったことを参考にして、学校でもう一度考えてみます。)

<北部中 Gさん>

道の駅の新聞記事に、事業費が5億2000万と書いてあったのだが、その5億2000万の費用はどこから出るのか。

<市長>

約半分は国から出る。道の駅には機能が2つあって、ひとつは地域振興施設、もうひとつはその地域を案内するというもので、本来別々に作らなければならないという規定がある。地域振興というのは、「物を売る」、その「物」というのもただ単に「物」ではなく、地域でできた「物」で、地域に根差した商品を地域の人たちの力で売るということ。スーパーマーケットに入ってきてもらって、コンビニのように売れるものは何でも売るというそういうことではない。地域で作ったものを地域の人たちが売って地域のためになるというのが地域振興施設である。

ガイドンス施設というのは、「勝山には何があるのか」「どんな観光地があるのか」「勝山以外にもここから車でどう行けば東尋坊に行けるのか」などを案内する施設のことである。この2つがその建物の写真の中には一緒に合わさって作られている。全国の道の駅はすべてそのコンセプトで作られている。

勝山市は5億2000万円の半分を出しているが、どこから得たお金かというと、主に市民の税金である。お父さんお母さんが出してくれている税金が主なものである。

<中部中Dさん>

ぼくはサッカー部に入っていて、部活の時にいつも暗くてポールがあまり見えない。毎回野球部の外灯を借りているので、サッカー部にも外灯が欲しい。

<市長>

中部中学校は、野球部には照明があるわけ？(Dさん：はい。)大きなグラウンドの野球をやるところにだけ照明があるということ？(Dさん：はい。)サッカー部は離れたところでやっているんだね。だから、暗くなるんだね。(Dさん：はい。)なるほど。今、みなさんにとっては大事な問題なんだけれども、中学校を再編するという方向に進んでいて、今あるみなさんの中学校をひとつにするという考え方が大きな主流になっている。それをどこに作るかなど具体的なことは今後まだ時間があるが、そのあたりのさわりを、教育長、話してほしい。

<教育長>

グラウンドはやはり暗い？校長先生、暗いですか？(山口校長：暗いです。)しかし、グラウンドをより明るくしようと思うと相当の設備が必要だね。そのあたりの外灯とは違う。それはつらい。よっぽど具合が悪いようなら別だが、いずれにしても一度現場を見させてもらう。

まだ先の話にはなるけれど、3つある中学校をひとつに統合しようということを教育委員会では考えている。市民のみなさんにいろんな意見を聞きながらその案をまとめている最中である。もしそれが実現すれば、そのときに合わせて、学校の施設もグラウンドもより整備して、勉強も部活もより快適な環境でできるようにしたいと考えている。でも、出来上がったころにはみなさんはもういない。みなさんの後輩ならいるかもしれない。だから、今すぐというのはちょっと難しいかもしれないけれど、一度現状を見させてもらう。

<北部中Iさん>

今度できる道の駅の施設名称は決まっているのか。

<市長>

まだ正式には決まっていない。ジオパークというのを入れるのかな。勝山のジオパークは、恐竜溪谷ふくい勝山ジオパークなので、「ジオパーク」と「恐竜」は入った名前になると思う。「恐竜」を入れたい。写真の絵にもあるように、恐竜の絵が描いてあるか、もしくは、

モニュメント、例えば、ホワイトザウルスみたいな、あれだけ大きいと時間もお金もかかるけれど、もう少しコンパクトなものを置きたいなと思っている。

<南部中 C さん>

さっきの話の中で、全部を紹介しきれなかった少子化対策について考えたことと第2恐竜博物館のメリットとデメリットについて考えたものを、せっかくの機会なので全部紹介させてほしい。

まず少子化対策の案を紹介する。恐竜の足跡を増やして、色を分けて、道案内の看板の代わりにする。(市長；ちょっと待って。それと少子化対策とどんな関係があるの？ちょっとわからない。) まず、勝山市に興味を持ってもらうことが大事だと思った。勝山に来てもらったときに「恐竜がいっぱいあるし楽しそうだな」と思ってもらえる町づくりをするのが一番かなと思いこれ考えた。

2つ目は、道案内の看板に恐竜をたくさん書いて、恐竜を前面に押し出す。

3つ目は、顔出しパネルをいっぱい作ってフォトスポットをたくさん作る。

4つ目は、勝山市に新しく引っ越してきた人たちに、治療費を負担したり、病院のお金を少し補助する制度を作ったり、家を新しく勝山に建てるときにお金を少し補助する。

5つ目は、グリコの会社を勝山によんで、恐竜型のピノを作ってもらう。

6つ目は、子育てのしやすい環境づくりを各企業などでしてもらう。(市長；子育てがしやすい環境というのは、例えばどういう環境?) 例えば、B君の話にもあったように、保育所とか学校とかが減ってきているので、そこを減らさずに頑張るって作るとか、働く場所を残しつつ、子どもたちが学校や保育所に入りやすいような子育てをしやすい環境づくりのこと。

7つ目は(市長；まだあるの?) あと4つある。7つ目は、永住権というのを取ってもらう、勝山市にずっといてもらう。

8つ目は、Aさんの提案にもあったように、年間フリーパスを作る。(市長；フリーパスね。それは、勝山に来た人に?) 勝山市民は、すべての観光施設に1回は無料で入れて、県外の人たちをよんできたなら割引されるという制度を入れるとよいと思う。(市長；市外の人ね。)

9つ目は、勝山にちなんだサプライズをする。(市長；それは例えばどんなこと?) 来てくれたら、イベントみたいところで左義長や恐竜を前面に押し出して、勝山の楽しさやにぎやかさを知ってもらうとよいと思う。

最後は、橋のたもとにある恐竜の像をもっと勝山の市内にたくさん増やして、勝山を恐竜でデコる。

次に、恐竜博物館のメリットとデメリットについて。

メリットは、「一度来た人もまた来てくれる」「さらに観光客が増える」「片方が混んでいてももう片方があり、こみ具合が解消されて両方を楽しむことができる」「一つ目の恐竜博

物館とは違うものになると思うので、それを楽しむことができる」「恐竜博物館が2つあることで勝山市の知名度が上がる」「一つだけでは紹介しきれなかった恐竜のことが伝えられる」「勝山に来た時に勝山で過ごす滞在時間が増える」「働く場所が増やせる」。(市長：恐竜博物館が大きくなると、働く人もたくさんほしいということだね。) はい。

デメリットは、「大きな費用がかかってしまう」「今ある一つの恐竜博物館の“ひとつだけ”という特別感がなくなる」「道がさらに混む」ということである。第2恐竜博物館を作るのではなく、シアターのバリエーションを増やす方法に費用を使ってほしいという提案もしたい。検討をお願いしたい。

<市長>

すごいなあ。まず、道案内に恐竜をということは前向きに考える。今道案内で、ジオパークのシンボルマークがある。ブルーの恐竜の顔と黄色い月があって、それがちょうど口のように見える。今それに統一しつつある。また違った看板をさらに充実させるために作るようになったら、その中で提案を考えてみたい。

顔出しパネルは、観光スポットには置くといいなとわたしも思うから、町づくり会社に提案する。

家を建てるときの補助とか勝山に来た人へのメリットというのは、勝山市も真剣にいろいろ考えている。勝山市にはほんとに手厚い補助政策がある。勝山で家を建てると、100万円勝山市が出す。勝山市に引っ越してきてくれる人には、引っ越し費用の一部を補助する。新しい家じゃなくて自分の実家に帰ってきてても補助する。パンフレットあるかな？(米村課長：今取ってきます。) そういうことを考えて実際に始めている。ただ、今質問があったように、みなさん、よく知らないから、企業のパンフレットと補助政策のパンフレットについては、勝山市全市の人にわかるように全戸配布するようにしている。お父さんやお母さんにもよく話してあげてほしい。

企業に保育所ということについて。大きな繊維会社が、昔自分たちの会社の中に持っていた保育所がある。それが今、勝山の私立の保育所としてずっと引き続いて存在している。例えば、松文保育園さんとか白木保育園さんとかケイター保育園さんとか、企業の名前がついている保育所はそこから発祥している。企業内で教育をするという取り組みは勝山市は全国に先駆けてものすごく早くからやっている。ほかの町ではどちらかというと、本来行政が作る保育所のほうが多くあるのだけれど、勝山市の場合は、企業が作ってきた保育所が多く、非常に大きな施設となっている。その伝統が今でも続いている。都会でよくあるような待機児童、保育所に入れたいが保育所の定員がいっぱいでなかなか入ることができないという状態が全くない。だから、保育に対する政策は十分にやっていると思うし、保育料も安い。福井県でも、一番目、二番目に安い。子育ての環境というのをよくするという努力をこれまでしてきている。もう一つは、みなさんも小学生の頃に通っていたと思うが、放課後児童クラブ、いわゆる、〇〇ザウルスは無料である。お父さん、お母さんの負担はない。大野市も一部そうだが、県下、あるいは全国で調べてみると、無料の地区はほとんどない。勝山市は

保護者の負担を少なくするための施策をやっている。子育て支援の大きな項目だと思っている。

永住権について。これは、難しい話だね。どういうこと？外国の人たちの話？（Cさん：ほかの県の人とか、外国の人たちで勝山に住みたいと言っている人たちにその権利を取ってもらって、勝山にずっといてもらおうという提案である。）これは国の仕事で、一地方行政にはできないと思う。このような動きも外国人労働者の件で話が出てくると思うから、注目してほしい。

年間フリーパスについて。なかなかおもしろいアイデアだと思う。このような働きかけを各施設にできないかどうか、まちづくり会社に話をしてみる。ゆめおーれや平泉寺は無料だが、有料のところをどのようにしていくかということを考えなければならない。恐竜博物館は勝山市の施設ではなくて県の施設だから連携をとれない部分がある。これからの課題として考えていく。

勝山に来てくれた人へのサプライズについて。その内容をもう一度聞かせてほしい。（Cさん：例えば、勝山へきて勝山に住むと決めた人たちが子どもを産んだときに、例えば山梨県は富士山の高さにちなんで、富士山の高さと同じ体重で赤ちゃんが生まれたら、その土地にちなんだものをプレゼントするというをしているらしい。そのようなことを勝山市でも何か取り入れたらよいのではないかと思う。）それはおもしろいが、アイデアマンがないとなかなか考えられないなあ。何か、アイデアを出して。おもしろい発想だと思う。「勝山はこんなことまでしてくれるの!？」とか「こんなおもしろいことがあるんだ!」ということがあるといいということだね。実際に何か考えてほしい。

恐竜のモニュメントを増やすことについて。実にいいアイデアでわたしもそうしたいと思っている。しかし、お金がかかる。勝山橋を渡ったところにあるフクイラブルはいくらだったかな。とにかくホワイトザウルスは3000万円かかっている。橋のたもとにあるものでも1000万近いお金がかかっているはずなので、思ってもなかなかできない。だから、「努力します」ということしか今は言えない。ただ、道の駅には何かそういったものを作りたいと思っている。検討してみる。

メリットデメリットについては、どんな質問だったかな？

<教育長>

メリットデメリットを中学生はこのようにとらえているということを市長にお伝えして、市長はどう思われますかということを知りたいのかな？（Cさん：はい。わたしたちは第2博物館について市長はどう思っているかを聞きたい。）

<市長>

第2恐竜博物館は県が作る。我々は希望は言えるが決定権はない。県は県議会と知事との話し合いで合意を求めて作るから、今どのようになるかはまだよくわからない。第2恐竜博物館であるならば、ぜひ勝山市に作ってほしいという希望は伝えてある。県の考え方もまだしっかりしてないところがあって、「第2」という特別の館を作るのではなくて、今あ

る博物館の充実とか混むから分散させるとか、さらに新しい発見があったときにはそちらのほうを充実させていくとかという考え方がひとつ。もうひとつは、全然性格の違うもので、中でショーをやるとか、去年やおとしにやった恐竜が動くショー（ディノ ア ライブ）のようなものを常時やるような、エンターテイメント性のある博物館にしたいというもの。ほかにもいろいろまだ考えている段階である。その方向性も勝山で作るかどうかもまだはっきり決まっていない。勝山市としては、勝山市で充実させてほしいという希望は伝えてある。

<司会>

これから、学校のリーダーとして頑張っていく生徒会執行部のみなさんにエールをお願いしたい。

<市長>

今日、それこそサプライズがあったのは、みなさんがすごく真剣に、それも、夢のある勝山市の未来に向けて様々な考えを持っていて、それを今日聞かせてもらったことが非常にうれしい。うれしいとともに、ここまで考えているのだなあとびっくりしたのと同時にたのもしいなあ思っている。この思いを高校生になっても、その先の人生の中で生かしてほしい。君たちの思いはしっかりと受け止めて、みなさんのふるさとであるこの勝山市をいいものにしたいという決意を改めて今日感じた。決意を心にしみこませて、頑張っていきたいと思う。今日を起点に、メールでもいいから、思いついたこととか、さらにこうしてほしいとかいう要望があったら発信してほしい。

<司会>

教育長、最後のあいさつをお願いしたい。

<教育長>

市長がみなさんにお伝えしたことが全てである。一つ付け加えるとすれば、去年から勝山高校がふるさと勝山をもっといいものにしようという新たな取り組みを始めた。1, 2, 3年生、3年間かけて、勝山の研究をする。他と比べてどうかなど、すべての生徒が一斉に総合で行っている。みなさんはその前段として、みなさんのフレッシュな目ですごいことを考えている。高校へ行ってさらに充実してほしい。ぜひ、勝山高校へ！ありがとうございました。

<市長>

これ(パンフレット)をよく読んでおいてほしい。お父さん、お母さんにもこんないろいろな話をしているということをお話してほしい。先ほど質問のあったこと市が補助しているようなことが全部書いてある。みなさん、がんばってね。